

当せん者エピソード

## 宝くじ こぼれ話

### 最終日の閉店時間きわきわに買って高額当せんした3人のハッピーさん

「先んずれば人を制す」とかいわれるが「残り物には福がある」ともいわれる。「どっちも、どっち」なのだろうが、最近の高額当せん者の中から、最終日買いで当せんした「極め付きのエピソード」を3つ紹介しよう。

★発売終了20分前 京都府の主婦S子さん(75)が地下鉄京都駅前を通ったら、近くの宝くじ売り場で男性が「あと20分で発売終了です」と叫んでいた。この声につられて年末ジャンボ宝くじ(第633回全国自治宝くじ)を連番で10枚購入したS子さん。結果は1等4億円と後賞1億円と合わせて5億円の大当たりだった。

★発売終了15分前 北海道の会社員Tさん(47)は仕事に追われ、年末ジャンボ宝くじ(第669回全国自治宝くじ)を買いそびれ、とうとう最終日に。なのに、この日も退社時間が遅れて売り場についたら閉店15分前。それでも10枚を予定通り買ったなら、3等の100万円に当せんした。

★閉まりかけのシャッターこじ開けて… 神奈川県の主婦K子さん(63)はドリームジャンボ宝くじ(第605回全国自治宝くじ)を買うつもりでいたのに、発売最終日になってしまった。その日も家事に追われ、売り場についたときは、閉店間際で窓口のシャッターが3分の1ほど閉まりかけていた。それでもあきらめずに、窓口の人に声をかけて10枚を購入。結果は、執念が実って3等500万円に当せんした。



ご当地クーちゃん  
ねぶたクーちゃん

当せん者エピソード

## 宝くじ こぼれ話

### 火事の類焼を免れた売り場で買った人と購入後に「炎の夢」を見た人が大当たり

宝くじにおける「吉夢」の1つに「火事の夢」があるが、火事跡の現場を見た人と、炎の夢を見た人が「もしや?」と期待していたら、大当たりした。

神奈川県で会社員U子さん(34)は10年来の宝くじファン。会社への道沿いで火事があったり周辺に類焼。ところが、火元に隣接する宝くじ売り場だけが、なぜか、まったく被害にあわなかったようだ。これを見て「運がある売り場だ」と直感したU子さん。発売中

だったドリームジャンボ宝くじ(第641回全国自治宝くじ)をこの店で30枚購入。抽せんの結果はU子さんの直感通り、2等の100万円に当せんした。

三重県の会社員Tさん(37)はサマージャンボ宝くじ(第645回全国自治宝くじ)をいつも通り50枚購入。そして、目にとまるよう、家のたんすの上に保管していたが、抽せん日を前に、赤々と燃える「炎の夢」を見たそう。これは縁起がいい」と喜び、寝床で密かに当せん祈願。そうしたら、1枚が3等の100万円に当せん。当せん金は「車の買い替え資金にします」と大喜びのTさんだった。



ご当地クーちゃん  
金太郎クーちゃん